

『テニピン』実施レポート

学校名	高岡市立能町小学校	実施日	6月17日～7月17日
担当教員名	高野 昌幸	実施学年/人数	4年生/90名
学校学級紹介	本校の4年生は、未経験のことに対しても一生懸命に楽しんで取り組む。ネット型の球技は初めての取り組みで、テニピンをすると投げかけた時点から「おもしろそう!」「早くやってみたい!」と期待を胸に膨らませていた。テニピンが始まってからもゲームとゲームの合間に壁打ちをしたり、作戦を考えたりするなど、前向きに取り組もうとする学年である。		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・8時間扱いの授業とした。 ・1時間目…ラケットの上でボールを弾ませる。 ・2時間目…一人で壁打ちをする。 ・3時間目…トスバッシングのようにペアの児童が投げたボールを打ち返す。 ・4～8時間目…ゲームやラリーを楽しんだ。 ・一度に6コートを使い、ゲームをしていない児童は、審判や得点係をしたり、壁打ちなど個人練習を行ったりした。 		
指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて行うスポーツだったので、道具に慣れてからゲームに移行した。 ・打ち返すことが苦手な児童もいるので、「何回バウンドしてから打ち返してもよい」という特別ルールを決めるなどの工夫をした。 ・勝敗を決めるのではなく、ラリーを何回も続けることを目的としたゲームも行った。 ・毎時間、活動後に振り返りの時間を設けた。ボールをコントロールするための技能面や、試合に勝つための戦術面についての気付きを学級全体で共有できる時間を確保し、次時につなげるようにした。 		
感想・印象 今後の実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの児童がテニス自体初めて体験するスポーツだった。 ・ボールが柔らかいからか怖がる様子は、みられなかった。 ・ダブルスで試合を行うことで、授業に参加する全員に得点できる機会が保障された。全員に均等にボールに触れたり、得点したりする機会が保障されていることで、個が活躍する場面が他のボールゲームの運動よりも増えた。そのため、技能上位の子のみが目立ってしまい、特定の子しかボールに触れないといった、これまでボールゲームにみられた問題の解決にもつながった。 ・バックハンドを使うことも指導したが、児童にとってはバックハンドを使うことは難しいようにみえた。 ・ネットのセットが4セットでは、少ないと感じた。あと2セット必要であった。 ・今後の実施予定は、未定である。 		

以下についても御協力御願います。

- 1) 指導案
- 2) 児童感想文（ホームページに掲載可能なもの）
- 3) 写真2枚程度（ホームページに掲載可能なもの）

児童の感想

- ・普通のテニスでは、ラケットを持つけど、ハンドテニスは直接手にはめて打つところがおもしろかったです。
- ・相手に向かって打つのではなく、上に向かって打ち相手の前に落とすことをイメージしながら打ったら、ラリーが何度も続いて気持ちよかったです。
- ・手にラケットを付けて打つから力の調整が難しかったです。
- ・ハンドテニスをする前は、簡単だと思っていたけれど、やってみたら思ったよりラリーが続かなかったから悔しかったです。けれど、ラリーが続いたときはうれしかったです。またハンドテニスをしたいなと思いました。
- ・試合では、コート全体を見て、相手のいない所をねらって打ったら、点になってうれしかったです。最後の試合は、ラリーがつづいて、もりあがりました。
- ・はじめは、サーブが決まらなかったり、相手のコートに打ち返せなかったりしましたが、練習したら、できるようになりました。だから、試合がとても楽しくなって、どんどん試合がしたくなりました。
- ・手にラケットを付けたときは、打つ強さや方向がコントロールできなくて、はじめはむずかしかったです。でも、練習していったら、自分が思っているようにできるようになって楽しくなった。試合でも、味方と声をかけ合いながら、コートに立つ位置を決めたら、勝つことができました。

